

## 2 具体的な取組

### 1 中学校区における連携研修の実施

#### (1) 小中教員交流研修

##### ① 中学校教員→小学校において1日体験

###### 【感想】

- ・ 小学校の先生方のきめ細やかな指導を見習わなければならない。小学校の先生方は、できないからできるようにするという意識の中で取り組んでいる。また、「折り合い」をつける訓練にもなる言語活動の充実は中学校でも大切だと感じた。
- ・ 小学校は短時間で個別の児童指導を行っていて、学級担任が児童をよく把握していると思った。小学校の先生方のきめ細やかな指導を、今後の学級経営に生かしたい。少人数ならではの温かな雰囲気があり、1年生から6年生まで全員で取り組める環境は児童に安心感を与えていると思った。
- ・ 小学校での細やかな指導が見られ、中学校でも継続性を持って進めていきたい。先生と児童の距離が近く、先生に対しての信頼も大きいものだと思う。各教科においても、学習訓練が行われていて、そのスキルを中学校でも活かしていかななくてはならないと痛感した。
- ・ 児童は挨拶をきちんと行っていた。基本的な生活習慣の形成に関しては、小中学校連携して、今後も行っていくべきだと感じた。算数の授業でT1として授業に参加し、課題の過程を考えさせる授業を行ったが、細かい過程が書けない児童もいた。中学校の数学では、課題を解決するための過程が必要になるので、授業においてもより良い連携が図ればよいと感じた。
- ・ 低学年の授業では、個人差が大きく、全体を指導しながらも個に対応していくのはとても大変なことだと感じた。また、小学校での細かく丁寧な指導のベースがあって中学校での生活が成り立っていることを実感した。
- ・ 生活指導面で、小中で同じ方向性を持って指導していくことが望ましいと感じた。また、担任だけでなく、学校全体で児童生徒を見ていくことが大切なことであると思われる。
- ・ 目立っていたのは発達障害の疑いを持つ児童。対応が難しい児童であるため、小中で連携を取る必要性を感じた。
- ・ それぞれの発達段階に合わせた丁寧な支援、継続性のある支援・指導がなされていた。最上級生として活躍している6年生の様子から、中学校でも1年生ではなく、7年生として自覚を持たせていく必要があると感じた。
- ・ 小学校で大切に育てていただいた児童を引き継ぐことになるので、今後も積極的な情報交換や小中交流を行い、継続した支援、また、先を見通した、足並みを揃えた就学指導につなげていければと思った。
- ・ 礼儀正しくルールやマナーをしっかり守っている子どもたちの姿をみると、中学校でもその姿を大切にしていあげたいと改めて思った。授業中も少人数だからこそできる授業展開となっていて、誰もが意欲的に取り組もうとする姿勢を大人数になっても形を変えてできれば、もっとやる子とやらない子の意欲の差がつけられるのではないかと考えた。
- ・ 小学校の現場で授業をT2で参加したり、児童と交流したことがなかったので、とても新鮮だった。児童指導に立ち会うこともできたが、担任だけの指導にとどまることなく、学年全体で話したり、指導したりしてたので、中学校の生徒指導と同じだと思った。
- ・ ほとんどの児童が、板書等をノートによくまとめ、意欲的に学習に取り組んでいた。休み時間のドッジボール大会やプールの授業をととても楽しみにしていて、元気よく活動していた。
- ・ 児童達はとても元気で、楽しんで学んでいる様子が見られた。授業中も自分の考えを述べやすく、とても居心地の良さを感じているのが分かった。
- ・ 小学校での6年間の生活指導や学習指導の大切さ、先生方の指導の細やかさなどを感じることができた。基本的な生活習慣も、毎日細かいところまで手取り足取りあきらめることなく指

導している。

## ②小学校教員→中学校において1日体験

### 【感想】

- ・中学生の実態や中学校での取り組みがたくさん見られ、とても勉強になった。どの教科においても、小学校で学んだことが生かされたり、活用したりしていた場面が多かった。小学校で学習していることが中学校で生かされていることを子どもたちにきちんと伝えたい。
- ・中学校は、小学校以上に制約された時間の中で多くの物事を進めなければならない前提があることを改めて痛感した。「6年担任の現段階で、子どもたちにできることは何か」という問いを自分で持った。「チャイムで時間内に」「1時間ごとのねらいを大切に」「この時間にできることを見据えながら」子どもたちを指導していくことが大切であると思った。
- ・中学校に入り、運動に勉強に熱心に取り組む姿はとても感心させられた。小学校が目指す方向性が見えてきた。中学校に必要な姿勢や態度について残りの小学校生活で身に付けられるよう指導したい。
- ・小学校で自分が担任して教えた生徒たちが、中学校の先生方より専門的な指導の中で力を伸ばし、元気に生活していたことを非常に嬉しく思った。生活指導の面では、指導の方針を学年等でこまめに打ち合わせすることで、どの先生も同じ指導ができるようにしているのを聞き、自分もそのようなことをより意識して指導していきたい。
- ・先生方の話し方や接し方は、思春期の生徒に対して程よく距離を保ち、伝えるべき事はきちんと伝え丁度良いと感じた。適切な指導が生徒の自主性を伸ばしているように感じた。6年生の頃とは、表情も内面も大人になった1年生の様子を見て、小学校で必要な指導、中学校で必要な指導の違いや大切さを感じた。
- ・コの字型の座席配置で行っており、ペア学習がしやすいように工夫されていることを知った。学習だけでなく、あいさつや給食のマナー、清掃の仕方等、生活面でも小学校から指導し、継続することが必要だと感じた。
- ・小学校よりも、英語の習得に重きを置いているため、生徒がより確実に英単語やキーセンテンスを習得できるよう、声に出して読んだり、ノートに書いて覚えたりする機会を多く設けていた。課題意識がぶれないよう教師自身が授業の中で勝負する意識を強く持っている。
- ・体育・数学ともにT2で参加させていただいたが、子どもたちは最初は人見知りして近づいてこなかったが、少し話しかけると色々話しかけてくれ、交流ができて良かった。
- ・どの教科においてもグループ活動を意識して授業されており、教材研究に大変時間をかけていると感じた。中学生が話し合い、教え合い、生き生きとしている姿を見ると嬉しくなった。挨拶をしっかりとる、3分前行動をする、清掃は黙ってやる等、大変成長を感じられるところである。
- ・印象深かったことは、あいさつ、移動、清掃、待機中の生徒の様子であった。全て上級生の指導が行き届いており、それに習うことで学校全体がきまりを守る雰囲気となっている。小学校でも、高学年が見本となることが最重要であると改めて感じた。
- ・朝から、気持ちよいあいさつで中学生が迎えてくれた。中学生の授業態度も良かった。学校全体で「学び合い」に力を入れており、グループで協力しながら学習を進めるスタイルが定着していた。
- ・中学校での授業や生徒の生活などが分かり、とても良い機会となった。小学校から中学校へつなげられるように、学業指導や生活面での指導において心がけることが見えてきた。

(2) 小中教職員合同研修会

中学校区	実施期日等	会 場
南河内中学校区	7月31日(水)	南河内東公民館(研修室)
南河内第二中学校区	8月6日(火)	道の駅しもつけ(研修室)
石橋中学校区	8月1日(木)	石橋中学校
国分寺中学校区	7月31日(水)	国分寺東小学校

【各部会による情報交換の評価】 4(高) ←→ 1(低)

	4	3	2	1	無記入	計
小学校	86	48	2	0	8	144
中学校	37	29	0	0	3	69
無記入	0	0	0	0	2	2
計	123	77	2	0	13	215
%	57.2	35.8	0.9	0	6.1	

【講話の評価】 4(高) ←→ 1(低)

	4	3	2	1	無記入	計
小学校	24	30	10	0	1	65
中学校	20	19	4	1	0	44
無記入	0	0	0	0	1	1
計	44	49	14	1	2	110
%	40	44.6	12.7	0.9	1.8	

【感想】

- ・いろいろな面から小中連携が図れてよかった。
- ・学習内容の系統性を確認したり、課題を明らかにすることができた。小学校で基礎力をつけて中学校へつなげていくこと、教科の系統性を理解して指導することが大切であると改めて感じた。どこが困っているところなのか、中学校の先生に聞くことができたので、そこを重点的に指導して中学校に送り出したい。
- ・小学校の先生が中学校の英語の模擬授業を体験する、中学校の先生が小学校の教科書を見るなどできるとよい。
- ・中学校の教科専門の講話、講習、授業支援があるとありがたい。
- ・中学校での自主学習の取り組み方がわかった。高学年の自主学習の指導に生かしたい。
- ・事前準備資料「学区のよさや課題」を持ち寄っての話合いだったので、問題意識をもって参加できた。それぞれの意見に対し共感することも多く、とても勉強になった。
- ・小学校間での情報交換ができ、大変貴重であったが、部会に中学校の先生がいなかったことは残念であった。小学校教員として考える「つながり」について話すことは有意義であった。
- ・小中それぞれの発達段階に即し、何をどのように行っていくのがそれぞれの役割を果たすことにつながるかを共同で考えることができた。
- ・特別活動の取り組みについて各校の様子を知り、参考になった。委員会活動、クラブ活動、縦割り班での活動などの小中連携も必要だと思った。中学校が望むリーダーと小学校で考えるリーダーはずれがあり、考えていく必要があると思う。小学校では、中学校で求めるリーダーになるための素地を育てる工夫と努力をしなければと思う。

- ・中学生，中学校の実態にふれるきっかけになり，勉強になった。小学校での問題は中学校につながっていることも分かり，しっかり小学校のうちに指導しなければならないこともあった。（携帯電話の正しい利用の仕方）
- ・小学校の低学年～高学年までの指導の仕方が異なり，工夫していることがわかった。基本的な生活習慣を身につけることは，どの学年を通じても行っていかなければ，なかなか身につかないことだと感じた。小学校の成長の様子をもっと知ることができれば，中学校の指導に役立てられると思った。
- ・こういう場でなくても情報交換できるようになるとよい。たとえば気になる児童生徒の家庭環境や，小中共通のあるいは協調して問題解決を図っていききたいことなど。プチ情報交換でもよいので継続していけることが大切。
- ・小中連携で出してもらった「生活のきまり」が大変ありがたい。あいさつ，靴箱の指導など，「生活のきまり」の具体性を生かして指導している。
- ・講話で，小中の連携により9年間を生き生きと活動する様子がたいへんよくわかった。「小中連携で無理に何かを作り上げるのではなく，小中の先生方が一緒にいる時間を持つことが大切」まさにそうだと思った。
- ・小学校とはあまり関係のない話に思えたが，子どもたち一人一人とじっくり関わることや面談の有効性等，小学校教員にも大切なことをたくさん学ぶことができた。学力向上のために行ったのが学習指導ではなく面接指導であったということが衝撃的であった。

